

2026年6月8日

各 位

東京都千代田区麹町三丁目2番4号
会社名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代表者名 代表取締役社長 天沼利彦
(コード番号：7777)
問合せ先 取締役 茂木龍平
電話番号 03(3511)3440

悪性胸膜中皮腫を対象とした 「MIRX002」医師主導治験（第I相）完了および主要評価項目達成のお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：天沼利彦、以下「当社」）は、株式会社PURMX Therapeutics（本社：広島市、代表取締役社長CEO：田原栄俊、以下「PURMX社」）に対し当社界面活性剤ペプチド*¹「A6K」を提供し、これを利用した「天然型マイクロRNA*²」補充型核酸医薬*³「MIRX002（以下本剤）」の開発が進められております。この度、広島大学原爆放射線医科学研究所・呼吸器外科 岡田守人教授が実施した、悪性胸膜中皮腫患者を対象とした医師主導治験（第I相試験*⁴）の単回投与試験および反復投与試験の両試験が完了し、それぞれの試験における主要評価項目が達成されたとの発表がPURMX社よりありましたのでお知らせいたします。

MIRX002-01 試験（単回投与試験）では、標準的治療が無効または既存治療を適切に実施できない悪性胸膜中皮腫患者を対象として、3用量群に3例ずつ、計9例に対しMIRX002を胸腔内に単回投与が実施されました。MIRX002-02 試験（反復投与試験）では、MIRX002-01試験に参加し、安全性に問題がなく治療効果が期待できると判断された患者を対象として、胸腔内にMIRX002を28日間隔で最大3回反復投与を実施する予定で、計4例が治験に参加しました。その結果、単回投与試験および反復投与試験のいずれにおいても、臨床上問題となる副作用は認められず、最高用量まで安全に投与可能であることが示されました。また、主要評価項目の安全性および忍容性が達成され、本剤の良好な安全性プロファイルが示されました。反復投与においては、副作用の増強は認められず、最大3回まで安全に投与可能であることが示されました。PURMX社は既に米国における希少疾病用医薬品指定を受けており、今回の治験結果を踏まえ、MIRX002の海外臨床開発の準備を進めております。当社は引き続きPURMX社と連携して本剤の開発に協力してまいります。

当社の自己組織化ペプチドを用いたドラッグ・デリバリー・システム（以下、「DDS」）技術は、マイクロRNAが天然型を保ったまま、その分解を保護し、がん細胞への送達を達成することに特長があり、幅広く核酸医薬の送達に活用できる可能性があります。このような核酸医薬によるがんの治療は今後さらに広がっていくと考えており、当社は同技術の多面的な臨床応用に向けた開発を推進するとともに、当該領域を中心とした核酸医薬へのDDSでの事業展開を模索してまいります。

なお、本件による通期業績への影響及び現中期経営計画における事業収益への影響はございません。承認取得の状況やその他の関連事項が業績に影響を与える場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

【参考（語句説明）】

*1：界面活性剤ペプチド

自己組織化する6-10残基程度のアミノ酸から構成されるペプチドで、疎水性部分と電荷をもつ部分が分子内の共存することにより界面活性剤としての性質を示します。水溶液中で自己組織化してナノチューブを形成し、マイクロRNAをはじめとする各種の分子と複合体を形成します。それにより体内での核酸の分解を保護したり、がん細胞への送達を達成できることがわかっております。

*2：マイクロ RNA

生体内に存在する20～25塩基からなる微小なRNAであり、他の遺伝子の発現を調節することで様々な生命現象を制御する分子です。人の体内には、判明しているだけでも2700種類以上のマイクロ RNAが存在しています。MIRX002では、人の細胞で合成されるマイクロRNAと同種のを補充することから、「天然型マイクロRNA」と呼んでいます。

*3：核酸医薬

DNAやRNAを基本骨格とした化学合成によって作られる次世代医薬品で、遺伝子発現を介さずに直接生体に作用する薬です。現在のところ悪性胸膜中皮腫に対する治療薬として承認されている核酸医薬はなく、新たな開発が期待されております。

本件に関連して、PURMX社より以下のプレスリリースが公表されています。詳細は同社公表資料をご参照ください。

・株式会社PURMX Therapeutics

『「MIRX002」悪性胸膜中皮腫を対象とした第Ⅰ相試験において主要評価項目を達成』

URL：<https://www.purmx.com/ja/newsrelease>